

# 令和3年度東京都教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（令和2年度分）の概要

## I 点検及び評価の根拠と方針

### ○点検・評価の目的

- ・毎年度主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにし、効果的な教育行政の一層の推進を図る。
- ・点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することにより、都民への説明責任を果たし、都民に信頼される教育行政を推進する。

### 1 根拠法令 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（中略）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2 東京都教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価実施要綱（抜粋） （点検及び評価の対象）

第3条 点検及び評価の対象は、東京都教育委員会の権限に属する主要な事務事業とする。

### （点検及び評価の実施）

第4条 点検及び評価は、前年度の東京都教育委員会の権限に属する主要な事務事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性を示すものとし、毎年1回実施する。

2 点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、教育に関し学識経験を有する者の意見を聴取する機会を設けるものとする。

### 3 有識者（令和2年3月委嘱）

デジタルハリウッド大学大学院デジタルコンテンツ研究科 教授 佐藤 昌宏  
国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官 白水 始  
国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部長 渡辺 恵子  
(50音順)

## II 点検及び評価の対象

東京都教育ビジョン（第4次）の体系に基づく令和2年度の主要な事務事業が対象

子供の「知」「徳」「体」  
を育み、  
社会の持続的な発展に  
貢献する力を培う

- 1 全ての児童・生徒に確かな学力を育む教育
- 2 社会の持続的な発展を牽引する力を伸ばす教育
- 3 グローバルに活躍する人材を育成する教育
- 4 夢と志をもち、可能性に挑戦しようとする力を育む教育
- 5 豊かな心を育て、生命や人権を尊重する態度を育む教育
- 6 健やかな体を育て、健康で安全に生活する力を育む教育
- 7 オリンピック・パラリンピックの精神を学び、育む教育

学校、家庭、地域・社会  
が相互に連携・協力して  
子供を育てる

- 8 生徒の多様なニーズと時代の要請に応える「都立高校改革」
- 9 これからの教育を担う優れた教員の育成
- 10 教員の負担を軽減し、教育の質を向上させる「働き方改革」
- 11 質の高い教育を支える環境の整備
- 12 家庭、地域・社会と学校とが連携・協働する教育活動

## III 点検及び評価に関する有識者会議

### 1 第1回 有識者会議

開催日時 : 令和3年5月24日、同月25日及び同月27日 ※個別開催

実施方法 : オンライン会議システムにて実施

### 2 第2回 有識者会議

開催日時 : 令和3年7月13日

実施方法 : オンライン会議システムにて実施

## IV 有識者からの主な意見

### 1 事務事業全般について

- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、全く前例のない、先の見えない1年間だった。そのような中、東京都教育委員会は、令和元年度末からの一斉休校、感染拡大防止のための施策・事業の見直し、学校における感染症対策の支援、コロナ感染症によって新たに必要となった子どもたちへの支援など、「有事」への対応を行いながら、子どもたちの学びの継続のために、オンライン学習等の環境整備を進めることなどにより、「平時」と同様の教育活動の実現を追求してきた。未知の感染症への不安も抱えながら、尽力してこられた教育庁の職員、学校教職員の皆さまに心から感謝したい。
- ・東京都教育ビジョンは、中長期的な視点で見守る必要があるが、今後、更に感染症の蔓延やその他の大きな外部環境変化が生じた場合は、学習者中心の視点を持ちながら、柔軟に施策の見直しや中止（選択と集中）を行ってほしい。

### 2 個別の取組について

#### ○デジタルを活用した教育の充実について

- ・区市町村立学校の情報通信ネットワーク、校内LAN、情報機器などの環境整備が完了したことは大きな成果である。
- ・ICT活用の目的は、教育・学習効果の向上にあり、整備で終わってはいけないことは周知の事実である。東京都教育ビジョン（第4次）、TOKYOスマート・スクール・プロジェクトの完成までの中間地点であるこの時期に、「利活用に向けた道筋」を改めて示すべきではないかと考える。
- ・現在、都ではSNSや情報教育ポータルサイト「とうきょうの情報教育」などを活用して都民、保護者等へ広く情報発信しているが、興味のある方に向けたコンテンツであり、文字も多く理解しやすいとは言い難く、結果として政策と教育現場において理解の乖離が見られる。そこで、都民、保護者はもちろん、児童・生徒、教員を巻き込んだイベント（オンライン・対面は状況を見て）を通して、広くビジョンやスタンスを発信すべきではないかと考える。
- ・ほとんどの施策がコロナ禍の影響を受けたが、中でも以下の施策については、ICTを活用してより大きな効果を生むものと考えられる。
  - ・対面での活動後、常時オンラインでセルフペースの学習
    - 1.1.3(3) 「校内寺子屋」の推進
    - 1.1.4 高等学校通信制課程におけるサポート体制の充実
    - 1.1.8 外部人材を活用した授業以外の場における学習支援の充実
    - 3.6.5 高度で創造的な探究学習の提供
  - ・デザインされた活動によるラポール形成後、児童・生徒や教員を問わず、つながり合うことによる日常的な学習（教員の場合、授業の実施だけでなく、協働での授業研究など）
    - 1.1.7 島しょにおける教育活動の充実
    - 1.2.2 授業改善に資する研究・研修の推進
    - 3.6.1(3) 小学校教員の海外派遣研修

- ・デザインされた活動によるラポール形成後、保護者と地域、学校関係者等がオンラインでつながり合うことによる価値観・問題意識の共有、各種事案への迅速な対応

12 家庭、地域・社会と学校とが連携・協働する教育活動

#### ○新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応について

- ・感染症の影響で、家庭環境に起因する教育格差の更なる拡大が懸念される中、一斉休校期間を除けば、地域未来塾やスタディ・アシスト事業が継続して実施されていることは心強い。
- ・臨時休校等が実施される場合、社会経済的に脆弱な環境に置かれた子供ほど休校による負の影響を受けやすいという研究成果もあるので、負の影響を最小限に留められるような施策の確実な実施と拡充に努めてほしい。その際、教育の視点だけにとらわれず、子供の学びと育ちの支援に関わる福祉部局など他部局とも連携し、社会経済的に脆弱な環境に置かれた子供にこそ施策が届くような尽力を期待したい。
- ・人が集まるのが難しい中、就学前教育カンファレンス配信動画や「SNS東京ノート」の活用法に関する動画のように、一本が短くて分かりやすく、いつでも参照できる動画による研修は、感染症がもたらした逆境を、新しい可能性を開く好機に変え得る取組である。育児や介護で時間的な制約が厳しいなどの理由で、集合研修に参加しにくい教職員も気軽に見ることができ、関心のある都民にも開かれたこのような取組を、今後更に進めることを期待したい。

### 3 点検・評価の在り方について

- ・多くの事業が並行して進められているため、進捗が分かりづらい。事業の進捗を都民にも開示、理解を求める意味でも、ひと目で進捗が分かる工夫をすべきと考える。具体的には、達成度をグラフやアイコン化し、5年計画のどこまで進捗しているのかを明示することを提案する。
- ・基盤整備系事業をEBPMによって効率的に検証しながら、そこで浮いた／空いた学校・教員のエフォートを効果的に使って、よりよい授業など児童・生徒に良質な学習経験を育むためのアクションリサーチへつなげていくことが重要である。一つの観点として、ICTにおいては、インプット（DVDやドリルによる学習者への情報提供）だけでなくアウトプット（学習者自身の意見の外化やフラットな協働）を、事例については、単なる普及から各主体の協働や吟味を重視するとよい。教員間、学校間、教育行政関係者等幅広い関係者間で、「協働問題解決」の場を増やしていくことが施策充実の鍵となる。
- ・「東京都教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を、各事業の改善につながり、都民が見ても分かりやすい資料にすることを目指してほしい。分かりにくさの原因の一つは、それぞれの事業の〈成果〉として示されている指標の種類が大きく異なる（取組状況、学校等から集めたエピソード、アンケート結果、対象者数などの変化など）ことにあると考えられる。例えば、それぞれの指標について、それが「インプット（資源の投入など）」「アクティビティ（取組）」「アウトプット（生み出されたもの）」「アウトカム（効果・望ましい変化）」のどれにあたるのか、また、それぞれの指標が量的に示されている（数値で表せる）のか質的に示されている（数値で表せない）のか、という整理を試みることも有効ではないか。